

風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

2 なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い／飢えを満たさぬもののために労するのか。わたしに聞き従えば／良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。3 耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従って、魂に命を得よ。わたしはあなたたちととこしえの契約を結ぶ。ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。・・・・6 主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。・・・・8 わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。9 天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている。

イザヤ55：1～9

13 あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなならず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

1 コリントの信徒への手紙10:13

13:2 イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。13:3 決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。

ルカによる福音書13：2～3

【説教要旨】

激的に変化していく時代にあって、社会の動き、特に政治、経済ということが絡み合って、私たちは生活の不安を覚えつつ、信仰生活をしていませんか。

聖書日課は第二イザヤという預言者の結びの言葉です。48年間バビロン捕囚末期から捕囚解放の時代を生きた預言者です。

捕囚以前に北王国は強国アッシリアに占領され混血政策を強いられました。サマリア人の誕生です。後に一般のユダヤ人はサマリア人を混血ゆえに軽蔑、差別し、付き合わず、旅行する時もサマリア人の住む土地を避け、捕囚帰還後の神殿再建からもサマリア人は遠ざけられました。

南王国は、この後バビロンに国土は踏みにじられ主だった人々は、バビロンに連れていかれ、苦労、苦難を味わいました。

民族の分裂、民族の強制移住をさせられ苦しい歴史を経験した民は、この経験の中から歴史を振り返り、自分たちがどこに立つかと言うことを深めていく中でユダヤ教が成立していくのです。旧約聖書の多くはこのとき編纂されていきました。

政治、経済が自分たちの人生を左右していくことをいやというほど体験し、よく知っていました。政治、経済が弱いと近隣の大国によって振り回され判断を失っていくのです。「なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い／飢えを満たさぬもののために労するのか。」と。

わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり／わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている。

まことに真実なるものは、「わたしに聞き従えば／良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよ

い。聞き従って、魂に命を得よ。」。「わたしに聞き従う」、「耳を傾けて聞き、わたしのもとに来る」、ここに判断を見失なわない、真実の生き方があるのです。魂はその豊かさを楽しみ、魂に命を得るといなのです。

「私たちは21世紀にはこれまでのどんな時代にも見られなかったほどの強力な虚構と全体主義な宗教を生み出すだろう。」と歴史学者ハラリ氏は21世紀を言っています。今、和平の道が開かれようとしているロシアがウクライナを侵攻したのはそのことを私たちに突き付けました。トランプアメリカ大統領にしても、プーチンロシア大統領にしてもどんな時代にも見られなかったほどの強力な虚構と全体主義な宗教家となっています。世界は狂っています。

だからこそ、私たちは聖書の歴史から学ぶべきです。国の崩壊で苦難を経験したイスラエルの民は何よりも神を信じ、神の言葉に聞き、従うことこそ危機を乗り越える力だとし、自分の血、肉としたのです。今の時代だから、「わたしの道はあなたたちの道と異なると／主は言われる。」ということに耳を傾け、聞き従うことです。イエスさまが言われるように悔い改めです。

イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。

悔い改める、それは個々の罪に制限しないで、人間の存在全体にかかわるもの、しかも『信仰者の全生涯』にわたって行うべきことであり、心の転換をいい、これまでの生き方を止めて、全く他なる心をもつこと、キリストに生きることです。キリストに生きるとは希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。ローマ5:5ということ。今までの生き方を止めて、世の虚構の力でなく、罪深き、弱き者に注がれるキリストの愛に自分が生かされて

いるという真実の道を生きることこそ、わたしの道はあなたたちの道と異なるという道を生きることです。神の愛に受容された道こそ虚構と現実、宗教と科学を区別する力です。今、しばらく真実な道が閉ざされているような困難な道を歩むでしょうが、「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。」という方と「み国が来ますように」と祈りつつ、共に神の真実を歩み、愛の奉仕を続けていきましょう。

参照：『ホモ・デウス』ユヴァル・ノア・ハラリ 訳柴田裕之 河出書房新社
『教育改革者ルター』金子晴勇 教文館

牧師室の小窓からのぞいてみると



現代、社会で気づいているのか、気づいていないのか分からないが70年代を生きた者は預言者的、何が正しいのかという生き方、しかし、若い人は祭司的、調和を重んじ、何が正しいかという生き方をしない。ただ、相手を思いやる優しい生き方である。世代の生き方の溝を感じる。

園長・瞑想？迷走記



一年が終わる行事が続いた。卒園式、修了式と。そして、退職していく先生方の送別会。多様性、多言語ということを大切にされた保育だったが、それは並々ならぬ日々の先生方の教育・保育があったのを傍で見ながら感謝と、ではこれからもどう取り組んで行くかという事を迫られた気持ちに私にはある。

それにしても感謝の気持ちで、近くのイタリアンレストランに招待をした。もちろん園長の自腹である。どしんと請求額がやってきたのだが、このどしんとこそ、発達特質を自分の背中に負いつつ、異文化の園児を両手で抱き、迎えていた日々の先生方のどしんとは比較ならないと思っている。

日毎の糧

床に就くときにも御名を唱え あなたへの祈りを口
ずさんで夜を過ごします。あなたは必ずわたしを助け
てくださいます。あなたの翼の陰でわたしは喜び歌い
ます。わたしの魂はあなたに付き従い あなたは右の御手で
わたしを支えてくださいます。 詩篇63：7-9



「ルターの言葉から」

憐れみ深い愛の神は、困った時や悲しい時にはいつ
でも、私たちの全幅の信頼を寄せるべきおかたである。

「オリブ山で ルターの『主の受難の説教』」 石橋幸男訳 聖文舎

慈しみは命にもまさる恵み

「本詩の作者が独自の表現をもって告白したのは、この
ように人間の生命を支え、これを豊かに生かす神の慈愛へ
の確乎たる信頼である。本詩はそれが彼自身の信仰体験に基
づくことを明らかにする。苦境にあつて神を慕い、神に救い
を求めた彼を神はしかと支えてくれたというのである。」

(詩編の思想と信仰Ⅲ 月本照男 新教出版)

門司港駅から掖済会病院が見える。高校生の4年間、この病院で
入退院を繰り返した。「夜を過ごします。」とあるように病人に
とって、夜は長い。夜は嫌いだった。朝がどんなに待ち遠しかった
か。特に体調が悪く、嘔吐が続いていると。しかし、イエスさまを
知って、これから同じようなことが起きたとしても、どこか安心感
があり、夜を怖がらなくなるかもしれない。あなたは必ずわたし
を助けてくださいます。・・・あなたは右の御手でわたし
を支えてくださいます。老いて、これから厳しい病気に襲われ
ることがあることが想像されますが、神の慈しみに支えられている
という揺るぎない信仰は不安を取ってくれます。床に就くとき
にも御名を唱え あなたへの祈りを口ずさんで夜を過ごします
という恵みを楽しみにしています。

祈り：主よ、あなたの慈しみ支えられることの恵みをいただき
感謝します。アーメン

甘木通信

「住職たちの経営戦略」という表題だけで本を購入したのだが、実は「江戸のお寺のサバイバル」ということを見忘れていて、現在の「住職たちの経営戦略」ではなかった。しかし、歴史を学び、今を見ると考えさせられるものがある。キリシタンを取り締まるために寺院が檀家であることを証明する寺請負制度を設けて宗教改めを実施し、檀家制度が作られ、経営の安定化をもたらしたと思う。しかし、明治以降の廃仏毀釈は、一事、経営を脅かした。寺院が二束三文で売りに出されるなどがあった。



その後、檀家制度に支えられた寺の経営は比較的安定化していくが、しかし、今日、檀家制度が壊れていく中で寺の経営は大変である。でも檀家制度のみに支えられたのではないと筆者は言う。

「『寺院離れ』という現象が加速的に進行する現代にあって、各寺院を預かる住職が檀家のみ依存しない多面的な活動に従事し、それによって寺院の維持を図っている」、「現代の寺院がかかえる問題は、寺経営が檀家のみによって支えられてきたという誤認もとづくのではなか、寺院を維持するためには、檀家を含む地域の人々が思考し、行動してきた営為を改めて振り返る必要がある。」

自分の収入の10分の1をまずとり、何よりも教会と言う私たちの時代終わった。地域に支えられるということにより教会経営も思考し、行動する時代だと思う。

(「住職たちの経営戦略」吉川弘文館 田中洋平)

(**甘木日記**)土) H 幼稚園の理事会。夜、次男家族と食事。日) 教籍のある教会の礼拝に出席。時代か説教作法も違うことに気づく。毎週、聖餐式だと聞く。昔、自分も毎週、聖餐式をした時期もあったが、日本のプロテスタント教会に似合わないと言われ、昔からの説教を中心とし、聖餐式は月1とする日本の伝統に戻した。月) 幼稚園が始まる。夜、甘木へ。火) 修了式の準備。水) 修了式。正直、ホッと。先生方とご苦労会、送別会。疲れているのでなかなか寝られない。木) 祝日を忘れていた。甘木幼稚園感謝礼拝の準備に甘木へ。金) 幼稚園感謝礼拝の準備、明日の卒園式のため夜、甘木へ。泊。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) H 幼稚園の理事会。新制度変換を目指した一年間。園長、副園長、園長補佐が取り組んでくださり、道が開けた。特に園長補佐の努力に脱帽である。何があろうと物事に前向きに向い、丁寧な仕事。気持ちが爽やかになる。私になく羨ましい。夜は次男夫婦と食事。

日) 礼拝をM牧師に頼む。引退者は語るより聞くことへの一步と訓練。若い牧師の説教を聞きながら70年代を生きた私たちの説教とは違う。彼らはどう聞くものをどう癒していくかという説教の時代であると感じる。夜、福岡に帰る。同年代の牧師、友人、教会学校の生徒が死んでいく。飛行機の中で周りに迷惑をかけないように終活を考える。ある牧師は、他の教会の教派の義理の兄弟の牧師によって葬儀をすべて終えて、それまで誰も死を知らなかった。これもありか。

月) 幼稚園が始まるが、行きたくないというのが気持ち。老いた。菜の花、蓮華の花の芽が出始めた。幼稚園が終わり、夜、家内と留守をした甘木教会に行き、色々と処理。帰り、夜にもかかわらず信徒さんが久留米まで送ってくださる。胃の重さが取れない体力がない私には大いに助かる。

火) 明日の修了式の準備。よくここまで来たものである。体重を子どもたちが計っていたので体重計にのる。82キロから78キロに落ちている。胃が重く食欲もないのも良いものか馬鹿なことを思う。ここまま70キロに落ちると良いと期待。(笑)

水) 修了式。「多様性、多文化」ということを目標に歩んだが手探りでここまで来た。感謝、感謝。ご苦労会を兼ねて、退職される先生らをイタリアンレストランに招待。一日、一日の先生方の働きを臉の奥で映像となってでてくる。春休みの預かり保育の担当表を作成。先生不足もあり、園長、主任は7:30分から18:30までいないといけない。和室に布団を持って来て泊まり込みするかと思う。牧師の長男に終活のお願い

をする。家内が元気であれば、家内と君で**移転前の幼稚園**→

葬儀。ブラジルの時代を共に歩んだ牧師だけには知らせた欲しい。墓は門司。お母さんが生きていくのに必要なことを一度、

移転後の園舎→
かめに来て、お母さんが安心して暮らせるように支えて欲しいと伝える。

木) 主日の準備。聖和幼稚園感謝礼拝の準備で甘木。金) 春休みの預かり保育が始まる。夜、甘木へ。泊。



確